タラスコン城

ルネ・ダンジュー芸術センター

見学用資料

歴史

ゴシックとルネッサンスの中間に位置するプロヴァンス地方の城砦

15世紀前半に建設された、タラスコン城は、フランスで最も美しい城砦の一つで、その建築と装飾において、ゴシック様式とルネサンス様式が融合した建築物の典型と言えます。プロヴァンス地方とラングドック地方を結ぶ、地上の道と河川が交わる場所に位置する、低い岩の上に建てられたこの城は、巨大な見張り番の役割を担っていました。タラスコン城は、1481年まで、ローヌ地方の政治的境界を支配していました。アヴィニョンとアルルの町を結ぶタラスコンは、中世全体を通じて、後にプロヴァンス伯となる、バルセロナ伯とアンジュー公の領土拡大と征服の拠点となっていました。自らの権力をこの地方に定着させるために、アンジュー公ルイ2世（♛1384～1417年）とヨランド・ダラゴン（♛1400～1417年）が、1400年の秋にローヌ川側の建物の建設に着手し、1411にようやく完成しました。彼らの息子、ルイ3世（♛1417～1434年）が、1429年から1434年にかけて、町側の翼を建設しました。国王お抱えの建築家、ジャン・ロベールがその建設を担いました。プロヴァンス公の後継者、ルネ1世（♛1434～1480年）が、現在ある状態で、この城の所有者となりました。彼は、格式あるナポリ王、シチリア王、エルサレム王、ダンジュー公、バール公、ロレーヌ公、プロヴァンス伯、およびフォルカルキエ伯の位を継承しています。ルネ1世は、この住居に、装飾的またはより快適にするための改装を施しただけでした。ルネ1世は、その数多くの滞在中、この城砦を会合や祝宴、威信を高めるための場所として用いました。

投獄された市民や戦争捕虜の留置場

公爵の権力の拠点であった、この城は、建設当時より、牢獄として使用されていました。1480年に、ルネ1世の敵、アラゴン王の信奉者である、カタルーニャ人の捕虜がこの城に幽閉されました。彼は2つの独房に、軍船や商船、宗教的モチーフと非宗教的モチーフの見事なグラフィティを彫りました。1642年から1926年にかけて、この城の牢獄としての役割が強化されました。
この建造物は、順次、牢獄、拘置所、矯正施設として用いられました。そのため、部屋は雑居房または独居房に作り変えられました。フランス革命期には、ロベスピエールの支持者たちが、1795年にここで処刑されました。この歴史の中で、17世紀と18世紀のヨーロッパ地中海の戦争を証言する、スペイン人兵士、イギリスとオランダの海軍兵が刻んだ数百点のグラフィティが残されています。

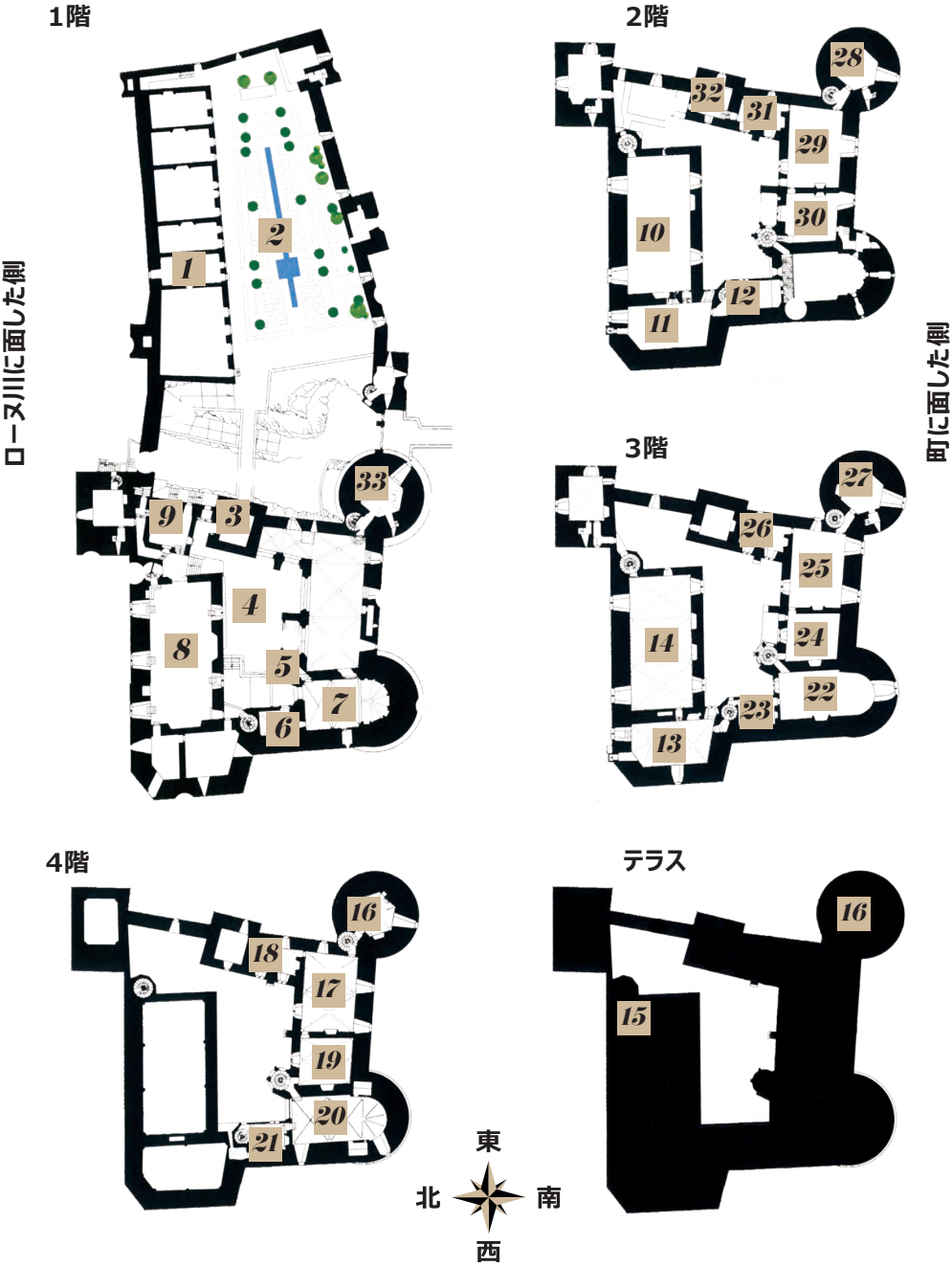
ペイ・ダルルの中心に位置する格別な史跡

高さ45メートルのタラスコン城は、長い間、アルルの北の風景を支配してきましたが、今日では、建築家フランク・ゲーリーが手掛けた、高さ56メートルのアルル・ルマ財団の塔にその地位を譲ることになりました。このように、タラスコン城は、その壮大さにより、アルピーユ山脈とローヌ川の間にまたがる領域の風景の中で際立つ存在となっています。その屋上からはローヌ川と平野、アルピーユ山脈とモンタニェットの見事な風景を一望できます。この城砦の優れた保存状態は、特に、国の歴史的記念物を担当する複数の建築家が手掛けた、修復工事と保守工事によるものです。1933年より、一般公開されている、この城は、2008年にタラスコン自治体の所有物となりました。

ルネ・ダンジュー芸術センター、歴史は続きます…

タラスコン城 - ルネ・ダンジュー芸術センターでは、現在、幻想動物のギャラリーを中心とする、歴史遺産と現代的創造の対話が企画されています。この文化プロジェクトは、城の天井や室内を彩る、絵画装飾と彫刻が施された豪華な内装を背景に用いています。これはタラスクという怪物の伝説にちなむもので、タラスコンの町の通りを練り歩く、その祭りの行列は、ユネスコの人類の口承及び無形遺産として知られています。2009年に設立された芸術センターでは、クリスチャン・ラクロワ、フランソワーズ・ペトロヴィッチ、クリスチャン・ゴンゼンバック、ドミニク・アンジェルなど、現代の芸術家への委託作品を展示しています。このようにして、アンジューの君主たちの芸術への情熱が、この比類ない史跡の中に受け継がれています。

見学コース


1階
2階
3階
4階
テラス
ローヌ川に面した側
町に面した側
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
東
北
南
西

城砦の裏庭側

1 厨房の建物
厨房は、調理用暖炉のある5つの部屋から構成されています。門は裏庭と庭園に向かって開いています。これらの門には、外側に、職業を表すオブジェ（酌をする召使を連想させる小樽）をあしらった浮き彫りが施されていますが、ひどく損傷しています。

2 裏庭
裏庭は、塔と正面の歩廊によって守られています。北の壁に残る砲弾の痕が、国王ルイ14世の兵士が彼の即位に反対する城の守備隊と対峙した、1652年6月の攻囲を想起させます。

3 主塔
主塔は君主の住まいへの立ち入りを監視します。17世紀に、石橋が木の跳ね橋に取り替えられました。

4 正面前庭
この庭は、君主の住まいのさまざまなスペースを結んでいます。階段の小塔の左側に、ルネ*1*世の最初の妻、イザベル・ド・ロレーヌ（*1400*～*1453*年）の祈祷室があります。壁龕の一つに、ルネ*1*世と*2*番目の妻、ジャンヌ・ド・ラヴァル（*1433*～*1498*年）の胸像が置かれ、ラテン語の銘文が刻まれています：「フランスのユリと十字架で描かれた、二人の聖なる英雄が、並んで進み、天国への旅立ちの準備をする」

5 大地下貯蔵庫
この貯蔵庫は、15世紀に油やワインが樽で保管されていた、広い地下室から構成されます。地下貯蔵庫は、独房として用いられることもありました。

6 聖歌隊の礼拝堂
ルネ1世は、ミサに参加する若い歌い手たちのために、1448年から1449年にかけて、この礼拝堂を設けました。
内側は主祭壇に向かって開いています。礼拝堂の床には、第一次世界大戦中の、フランス人とベルギー人の勾留者が描いたグラフィティがあります。

7 聖母の礼拝堂
内陣のヴォールトのキーストーンは、聖母の戴冠を表現しています。ヴォールトの末端の迫持台には、旧約聖書の預言者の寓意である、老人とブドウの葉の彫刻が施されています。19世紀には、拘置所の収容者が入り口の扉の縦材にグラフィティを刻みました。

8 祝宴の間
大窓から光を採り入れたこの部屋は、カラマツの天井で装飾されています。中世の時代には、ここで食事がなされました。そのために、ローヌ川につながる流し台とゴミ用トラップが設けられています。ここは、君主が客人をもてなした大広間でもあります。王立海軍のイギリス人兵士のグラフィティが証言する通り、この部屋は18世紀に雑居房に作り変えられました。

9 パントリー
パントリーの名残りのパン窯が、恐らくは火事によって一部破壊された塔の1階にあります。

城砦のローヌ川側、2階

10 大広間
この部屋は、ルイ2世とヨランド・ダラゴン（1384～1442年）の食堂と宴会の間として使われていました。天井には、クロゾワールと呼ばれる、絵画が描かれた小さなパネルが保存されています。中世の動物画に典型的な、奇怪な動物が描かれています。壁には、1イギリス人捕虜たちのグラフィティが散りばめられています。

11 ルイ2世の寝室
ルイ2世の寝室は、トイレ、中方立てのある窓、埋め込み型の暖炉を備えていました。東の壁に刻まれた、革命期のグラフィティには、正義の天秤、フリジア帽、2つのフランス国旗で装飾された、共和派の縦隊が描かれています。

12 礼拝堂付き司祭の部屋
礼拝を執り行う、礼拝堂付き司祭がこの部屋に住んでいました。ルネ1世は、1470年代に、礼拝堂を見下ろし、大階段に続く、木製の階上廊を設けました。

城砦のローヌ川側、3階

13 広い奥まった部屋
広い奥まった部屋は寝室として使用されていました。壮麗なヴォールトの下の、迫持台にはブドウの葉と、アンジュー公の象徴であるゆりの花とエルサレムの十字架が描かれた古い紋章の装飾が施されています。

14 大ワードローブ
1457年に作成された家具目録により、2つの暖炉のあるこの広い部屋は、最初食堂として、その後は物置として使用されたことが分かっています。イギリス人の捕虜たちが、南の壁に数多くのグラフィティを刻みました。

15 屋上
屋上からは、ローヌ川、サント・マルト教会、タラスコンの歴史的中心部と平野、アルピーユ山脈、モンタニェット、ヴァントゥー山とリュベロンのパノラマ風景が見晴らせます。銃眼と石落としが高さ45メートルの屋上を取り囲んでいます。これらの壁には幻想動物ガーゴイルの装飾が施されています。

見学コースの2番目の部分にアクセスするには、北東の塔の方に進んでください。

城の街側、4階

16 小部屋
この小部屋には、オジーヴ穹窿が用いられています。迫持台の1つには、15世紀の典型的な衣装である、高貴な服を着て、頭から外套を被った、うずくまる人物の装飾が見られます。

17 大寝室
守備隊の責任者である隊長は、このアパルトマンに住んでいました。ローヌ川側の翼とは異なり、街側の翼の暖炉は、嵌め込みではなく彫刻が施されています。
下部には、動物としかめ面をした人物の装飾が施されています。

18 小部屋
中世の時代、この部屋は、隊長の専用で、恐らく浴室として使用されていたと思われます。陶器のタイル張りの床は、18世紀に設けられました。壁には、大砲が並ぶイギリスの戦艦のグラフィティが刻まれています。

19 隊長の部屋
隊長は、暖炉のある個室を持っていました。アーチの迫受石は、コウモリと人物と鷲のモチーフの迫持台で装飾されています。

20 上の礼拝堂
中世の時代には、上の礼拝堂は君主専用でした。君主の家族はミサに参列することはできましたが、君主とその妻だけが、外陣の両側に位置する2つの祈祷室を持っていました。内陣のヴォールトのキーストーンには、アンジュー公ルイ3世の紋章が描かれています。大ステンドグラスからの光が礼拝堂を照らします。これはアヴィニョンの教皇庁宮殿の建築から着想を得ています。迫持台は、キリストと聖体の秘跡を暗示する、ブドウの葉とブドウの房の装飾が施されています。

21 発汗室
発汗室は、古代の蒸気風呂のように床を温める浴室です。君主だけが使用したこの部屋は、中世の時代に身体の清潔さが重視されていたことを証明しています。

街側、3階

22 ルネ1世の寝室
この部屋は、ルネ1世の1447年から1449年の滞在時に使用されました。天井は2000年に完全修復されました。街を見晴らす窓には、クシエージュと呼ばれる石の広い腰掛けが付いていました。18世紀には、王立海軍の兵士が壁に軍艦や文章、馬、大砲などを彫りました。

23 書斎
これはルネ1世と彼のお気に入りの写本装飾師、バーテルミー・デックが使用していた書斎です（1472年頃）。彼は、君主が著した書物の写本装飾を手掛けました。

24 マルグリット・ド・シャンブレーの寝室
この部屋は、陪膳ルイ・ド・ボーヴォ（1409～1462年）の妻、マルグリット・ド・シャンブレー（1423～1456年頃）が使用していました。王妃に倣って、彼女も自分の寝室を持っていました。

25 大寝室
この部屋は、君主の邸宅の壮麗な中世装飾を想像させます。天井は1960年代に修復されました。クロゾワールには、犬を連れた宮廷の貴婦人、音楽家、家畜、怪物などが描かれていたと想像されます。これらの装飾は、1450年頃にバルテレミ・デックが手掛けたものと考えて間違いありません。

26 書斎
陪膳の妻も、1457年の目録に記されている通り、自分の書斎を持っていました。雑居房として利用するために、18世紀に中世の天井が修復されました。

27 六角形の部屋
未修復のこの天井は、1435年以前に作られた天井の特徴を伝える、内部構造の希少な証言となっています。カラマツの太い梁は、バス＝ザルプの森で伐採され、河川でタラスコンまで運ばれて来たものです。

城砦の街側、2階

28 小部屋
この部屋の天井の一部は、暖炉の煙によって黒ずんでいます。それでも、この城砦で唯一の、木材に彫られたフリーズ装飾を伺うことができます。壁には、18世紀のフランス革命前と革命期に投獄された市民や軍人たちのグラフィティが刻まれています。

29 大寝室
暖炉は、ボーヴォ家のライオンの紋章で装飾されています。顧問のピエール（1380～1435年）とルイは、アンジュー公と親しく、それぞれ順に、陪膳の称号を受け継ぎました。君主の代理を務める、彼らは特に、王のお抱えの建築家、ジャン・ロベールと共に、城の建設工事を指揮しました。いくつかの滞在では、この部屋は君主の配偶者たちが使用しました。

30 正方形の部屋
この部屋には、右の窓が、王妃専用の、部分的に破壊された祈祷室に続いています。正面前庭からは、平屋根だけが見えます。格子で守られた扉は、トイレと、ヴォールトに三つ葉模様の描かれた古い祈祷室に続いています。

31 小部屋
中世の時代、この部屋は君主の身近な人たちの寝室として使われていました。

32 主塔の部屋
この塔の中には、3つの部屋が積み重ねられていました。壁に床板の跡を見ることができます。上の階には、梯子でしか上ることができません。城を防御するための武器の一部が、ここに保管されていました。

城砦の街側、1階

33 カタルーニャ人の捕虜の独房
この部屋の壁には、15世紀後半（1480年頃）のグラフィティが刻まれています。これはルネ1世の敵国、カタルーニャの船匠によるものであることは間違いありません。この人物が幽閉された正確な理由は分かっていません。グラフィティには軍船（ガレー船）と商船（大帆船）が描かれています。東の壁には、カタルーニャとアンジューの6隻の軍船が対峙する、海戦の場面が描かれています。これは、ナポリ王国、シチリア王国、エルサレム王国の支配権を巡る、アラゴンの君主との戦いを描いたものです。入り口の扉の傍には、聖母マリアに捧げられた祭壇と、中世に非常に人気のあったチェスとトリクトラクのゲームテーブルがあります。

出口はギャラリーと正面前庭に戻ってください。

お越しいただきありがとうございました。

城の歴史のギャラリーをご覧ください

プロヴァンス伯からバルセロナ伯、アンジュー公、ナポリ王、シチリア王、エルサレム王、戦争捕虜、投獄された市民まで、この城砦の移り変わる居住者たちの歴史を探求しましょう。フランスとヨーロッパと地中海の歴史を巡る、これまでにないコースです。

幻想動物のギャラリーを見学しましょう

城の天井と壁を飾る、架空の動物たちの絵画や彫刻を探しに出掛けましょう。タラスコンを象徴する架空の動物、ローヌ川の竜、タラスクをテーマとする、クリスチャン・ラクロワが手掛けた委託作品により、見学がさらに内容深いものとなります。

Imp. Les Presses de la Tarasque certifiées Imprim'vert - Ne pas jeter sur la voie publique

便利情報

タラスコン城 - ルネ・ダンジュー芸術センター
(Château de Tarascon - centre d'art René d'Anjou)
Boulevard du roi René 13150 Tarascon France
電話番号：33 (0)4 90 91 01 93

タラスコン城の最新情報については、ホームページをご覧ください：
chateau.tarascon.fr

編集デザイン：タラスコン城管理局と公共サービスグラフィックデザイン：コミュニケーションサービス
フォトクレジット：タラスコン市、Hervé Hôte（Agence Caméléon - アルル）

CHÂTEAU DE TARASCON
CENTRE D'ART RENÉ D'ANJOU

Cité provençale Tarascon

tarascon.fr